

——まさに、頼られる存在ですね！

【今津】この業界は、1人の職人さんでやっているところも多いので、年齢的なことで引退したり、1人で請け負えない量のため、弊社に相談がくるケースもあります。組織でやっているメリットを生かしていたら、自然と今の形になっていた感じです。

現場の声を大事にし、 “新幹線型”で成長したい！

今年(2021年)8月に代表取締役役に就任した今津さん。2代目の代表であったお父さまは、今津さんが入社して5年目に亡くなったそうです。そんなお父さまの想いを受け継ぎ、従業員約60名(横浜工場、群馬・館林工場、福岡・飯塚工場)の代表として、日頃からどんなことを心がけているのでしょうか。



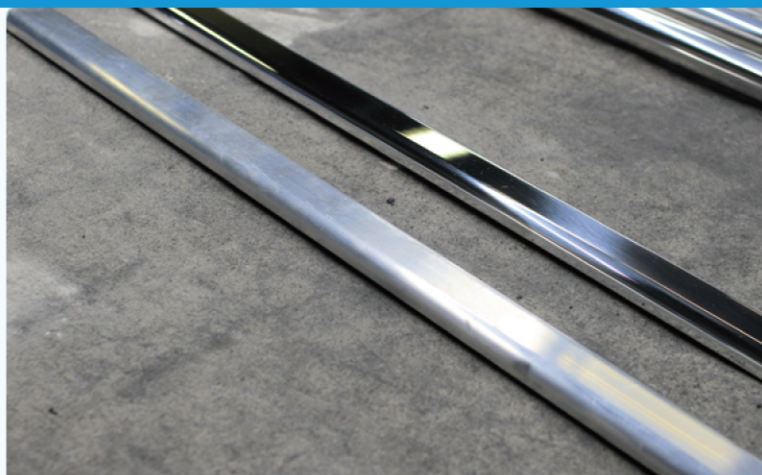
職人技が光る！ 研磨加工の様子

——社長として従業員の方と接する中で、意識していることはありますか？

【今津】「現場の声を聞くこと」は大事だと思っています。仕事を請ける際も一度持ち帰り、「現場と相談し正式に受注する」が基本です。

——館林や飯塚の工場とは距離があるので、大変な面もありそうですね。

【今津】逆にコロナ禍でリモート体制が定着したので、話をする機会は増えたかもしれません。もちろん、実際に足を運ばないと分からないことも多いので、定期的に訪問するようにしています。実はこれまで、社長が飯塚工場を訪れる機会は少なかったのですが、それを聞いて申し訳なく思ったのと同時に、すぐに変えてゆかなければ……と！



研磨の前と後ではこんなに違いが！

——その後、変化はありましたか？

【今津】従業員へ順番にヒアリングをしたところ、いくつか問題点が見えてきたんです。「社長として、最初の仕事はコレだ」と思ったので、すぐに改善策を提案しました。しばらくすると、「社内の雰囲気明るくなった」という声があり、ホッとしましたね。父の時代はワンマン経営的な部分もあり、それが根付いてしまったと思うんです。電車にたとえるとすれば「機関車型」で先頭車両が引っ張ってゆく感じでしたが、私は全車両にモーターが付く「新幹線型」を目指したい！ 一方的に私が引っ張るのではなく、仕事を楽しみと感じられる環境を作りながら、一緒に進み成長してゆきたいと思っています。

——最後に、今後の夢をお聞かせいただけますか？

【今津】阿蘇工業のことを、もっと多くの方に知ってもらいたいですね。さらに大きな夢としては、研磨加工という枠にとらわれず、新たな展開ができればいいなと思っています。まだ漠然としていますが、他の製造業とタッグを組み、それぞれの得意分野で何かできたら面白そうだなと！ 「磨きや加工の技術と発想で、新製品の開発をする」そんな夢に向かって、今後もお客さまのニーズに合わせたモノづくりに取り組みたいと思っています。

(取材・文／小林 真由美)

阿蘇工業(株)
のHPはコチラ
から→→



さらに詳しい
記事が読める
ハマ街ビト
(番外編)は
コチラから
→→

